

先生方の授業づくりを応援します!

# 学びのサイクル通信

～ R3年度からの「『学び』のふりかえり」の活用に向けて～

## これまでの取組事例から

これまでの取り組み方や感想について、先生方にインタビューしました。先生方のご意見を裏面のR3年度の活用に反映させています!



### Q. 取組を通して子供にどのような変容がありましたか？

- ・分かりやすく記述することを意識する様子が見られるようになったと思います。
- ・取組を続けていく中で、記述に対する抵抗感がなくなってきたように思う。特に、「上の〇〇さんと同じように説明してみよう…」という問題への取組に効果を感じました。
- ・普段の授業の中でも、自分の考えを説明するときに、理由を明らかにして説明しようとする子供が増えたように感じます。
- ・教科書やワークでは記述式の問題が少ないので、取組が「書く」ことに慣れる経験になりました。

### Q. どの時間を使って評価問題を実施しましたか？

- ・市販の単元テストと同じ時間内に行っています。
- ・市販のテストの返却と直しが終了した後チャレンジ問題として実施しています。
- ・おもしろい問題が多いので、授業中に扱えたら…思っていましたが、そのような活用はできませんか？
- ・特に今年は、感染症の影響で実施の時間が取れませんでした。家庭学習でも問題が使えるともっと活用が進むと思います。



### Q. 採点・集計はどのように行いましたか？

- ・採点については、担任が行いました。Webシステムへの入力には教務主任がまとめて入力しました。採点から返却するまでに時間がかかってしまった単元もあり、反省しています。
- ・Webシステムに入力することで、県内の平均点と比べられるのでクラスの実態把握には役立ちました。もっと簡単に比較ができるといいのですが…。



### Q. 振り返りをどのように行いましたか？

- ・評価問題を実施した後すぐに、解説を行っていました。子供が「何て答えればよかったのだろう」と気になっているうちに確認することで効果的な取り組みができると思います。
- ・振り返りの時間をとることが難しかったです。振り返りにもっと力を入れれば、子供の力になるのだろうとは思っています。
- ・教師の丸付け、子供の振り返りにかかる時間の短縮が課題でした。



# R3年度からの「『学び』のふりかえり」の活用について

R3年度からは、「学びのサイクル改善事業」としての取組はありませんが、次の新規事業において問題を活用していきます。

## 「情報社会に生きる読解力・記述力育成事業」（新規）

「学びのサイクル改善事業」の国語・算数の問題は、電子化し、授業や家庭学習に活用できる副教材として、新たに始まる「情報社会に生きる読解力・記述力育成事業」に活用していきます。「児童生徒が情報を正確に読み取り、情報を整理・比較して自分の考えを適切に記述する力を高め、学力の向上と定着を図る」ことを目的に、1人1台端末の活用を推進し、GIGAスクールにおける深い学びの充実を図っていきます。

また、本年度まで使用している算数科の「『学び』のふりかえり」は、問題と解説資料を引き続き配信します。

### 問題と解説資料の活用について

先生方のアイデアで効果的に活用してください！



#### 1 解説資料に記載された「想定正答率」と比較することでクラスの実態を把握することができます

これまで活用してきたWebシステムは、R2年度末をもって終了します。3年間の取組を通して集計された県内の結果を基に、「想定正答率」を算出しますので、それを基に県の状況との比較が可能です。「想定正答率」は、教師用解説資料に掲載します。PDCAの「C (check)」を行う際に活用してください。



#### 2 本問題を「授業で扱う課題」や「家庭学習の課題」とするなど、柔軟な活用ができます

これまでは結果入力までを本事業の取り組みとしていたため、本問題は単元末に行う評価問題としての活用に限られていましたが、令和3年度からは、先生方の計画に合わせて柔軟に活用してください。



#### 3 「ふりかえり動画」を活用することにより、振り返りを効果的・効率的に行うことができます

問題の振り返りを行う際に「ふりかえり動画」を視聴することで、児童は視覚的に問題を捉えやすくなり、児童が自身の解答状況を振り返ることができます。また、来年度導入予定の1人1台端末等を利用して、自己評価を行うなど、個別の学習にも対応できます。